

「2020広島教区代表者会議」に向けてのアンケート
教区代表者会議準備事務局分析 中間報告書

小教区等アンケート実施：2019年12月～2020年1月

2020 広島教区代表者会議テーマ

ともに喜びをもって福音を伝える教会へ

2020年6月

報告者：「2020広島教区代表者会議」準備事務局

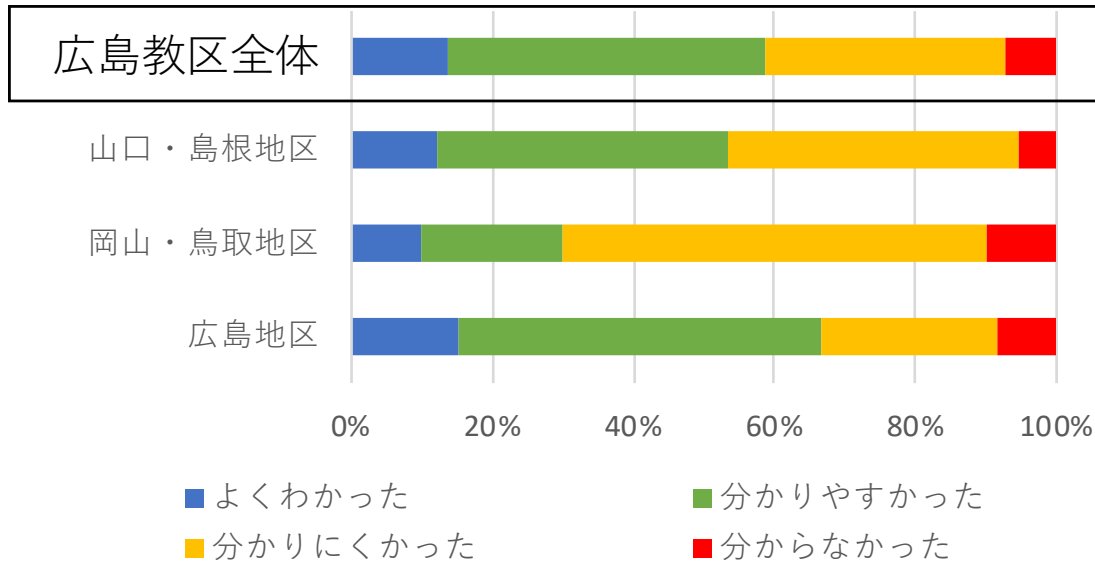
もくじ

【アンケート集計結果の部】	2
アンケート集結果グラフ	3
【報告書の部】	6
1. 教区の歩みを振り返る	
[1] 3本柱と4つの推進事項	
①「平和」・「きょうどう」・「養成」の3本柱	7
②「平和推進」の実践	8
③「きょうどう推進」の実践	9
④「養成推進」の実践	10
⑤「多文化共生推進」の実践	11
[2] 優先課題と宣教司牧テーマ	
⑥優先課題	12
⑦教区の宣教司牧のテーマ	13
⑧前項①、上記⑥⑦の3種類の目標や課題などの固有性や関連性について	14
[3] 宣教司牧テーマの実践	15
2. 「教区創立100周年」の迎え方・祝い方を考える	
[1] 「社会へのチャレンジ」について	17
[2] 「教区創立100周年」のあり方について	
①記念ミサをおこなう日	18
②関連行事について	19
3. 教区創立100周年後の新たな教区の優先課題や目標を考える	
[1] 今後、継続または新たに加える課題や目標について	21
[2] 多国籍化・少子高齢化・召命減少化での今後の教会機構・組織のあり方、工夫について	22
[3] 前項に関連して小教区・地区・教区での行事・活動の工夫について	23
【資料の部】	24
1. アンケート実施案内の関係資料	
「2020 広島教区代表者会議」に向けての準備について (2019年11月1日発信)	25
「2020 広島教区代表者会議」に向けてアンケートのお願い (2019年11月1日発信)	26
添付資料・・・広島教区2005教区代表者会議 (第1回) 2020教区代表者会議 (第3回) までのあゆみ (ロードマップ)	32
2. 在日外国人の統計資料	
中国5県の外国人登録者数 (2019年6月)	33
中国5県の年代別外国人居住者 (2019年6月)	34
中国5県の外国人居住者推移	35

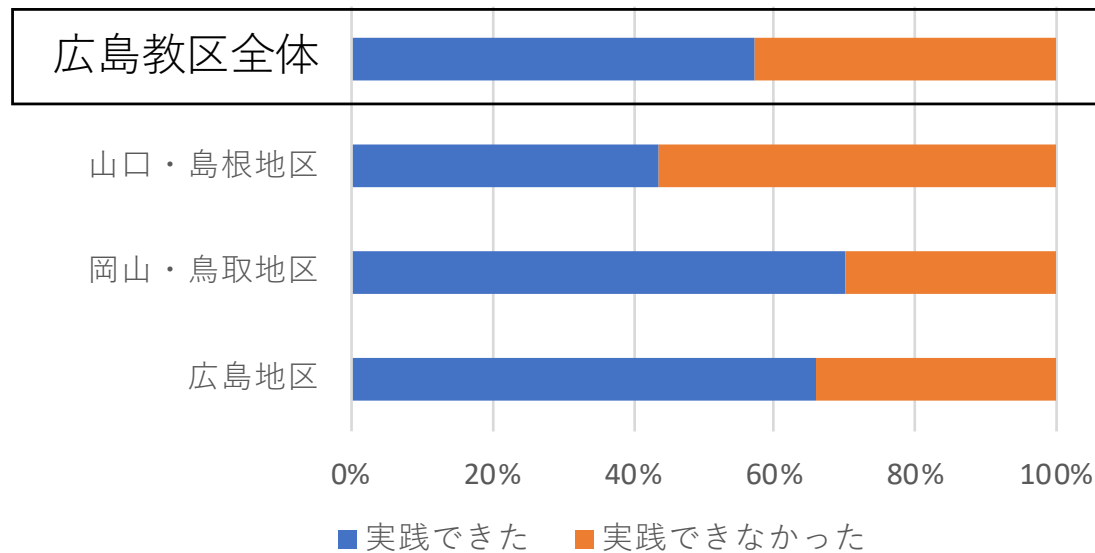
【アンケート集計結果の部】

アンケート集計結果

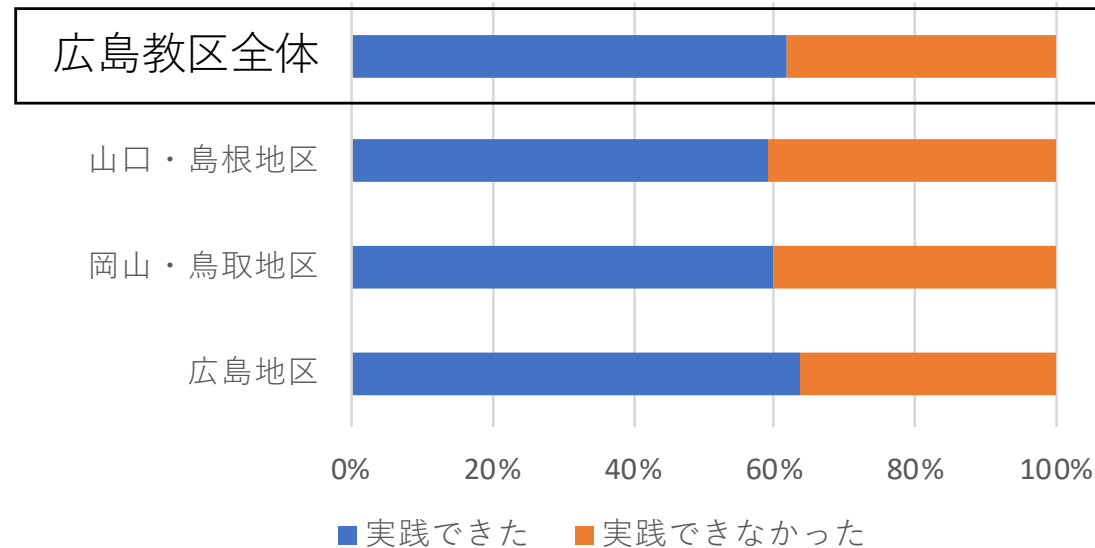
Q1. 「平和」「きょうどう」「養成」の3本柱は・・・



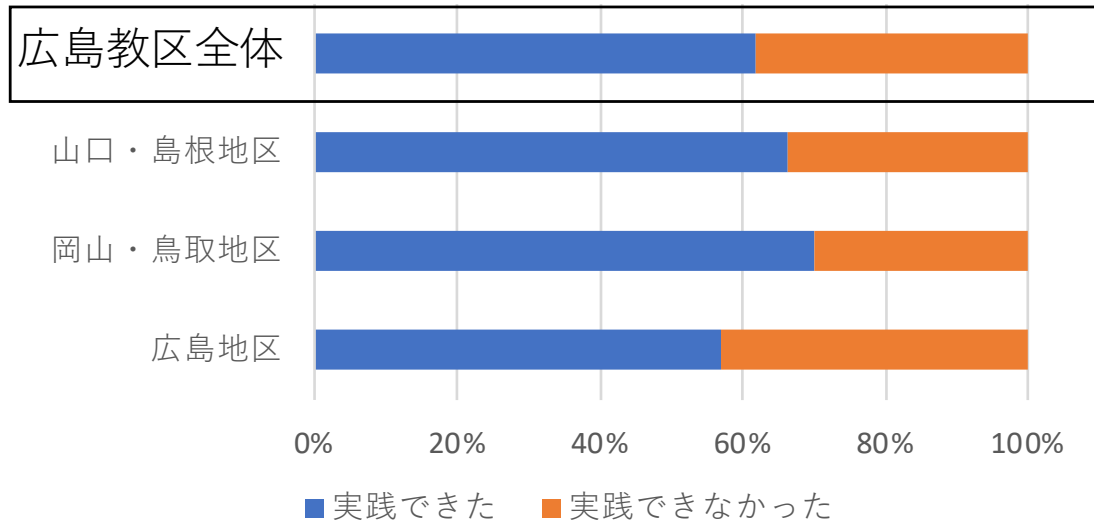
Q2. 「平和推進」の実践は・・・



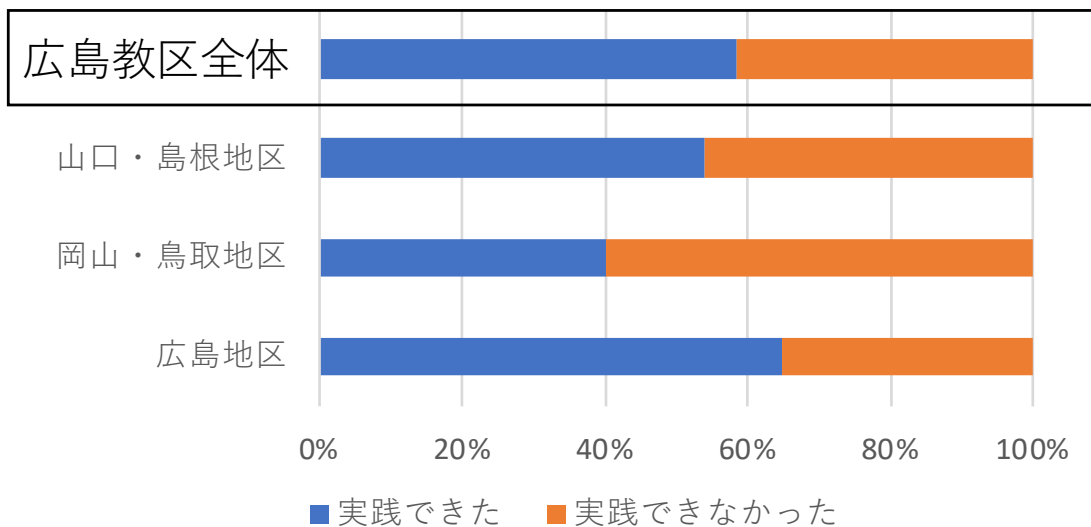
Q3. 「きょうどう推進」の実践は・・・



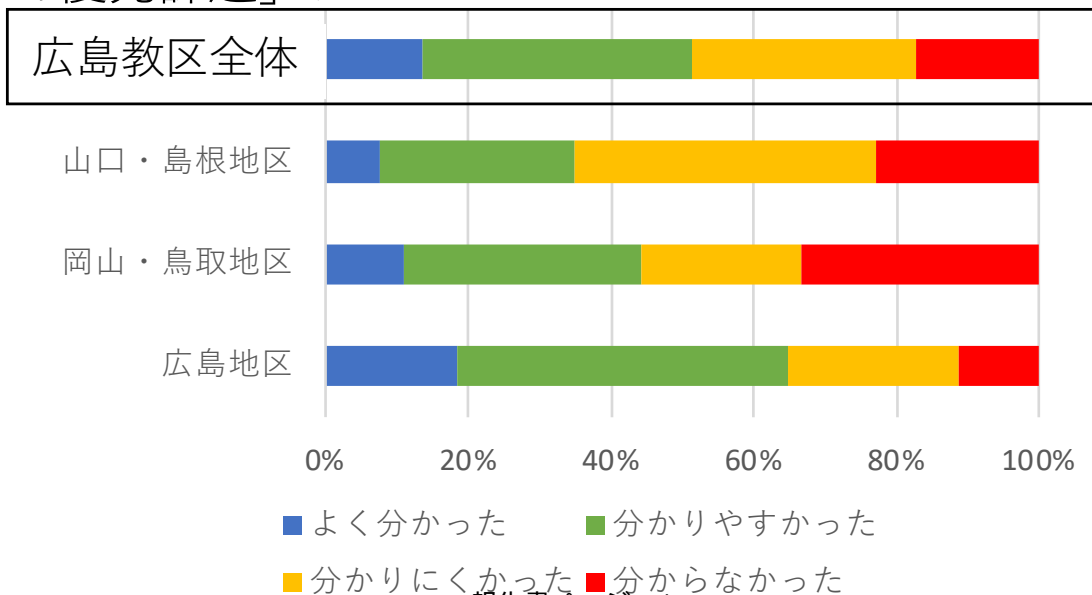
Q4. 「養成推進」の実践は・・・



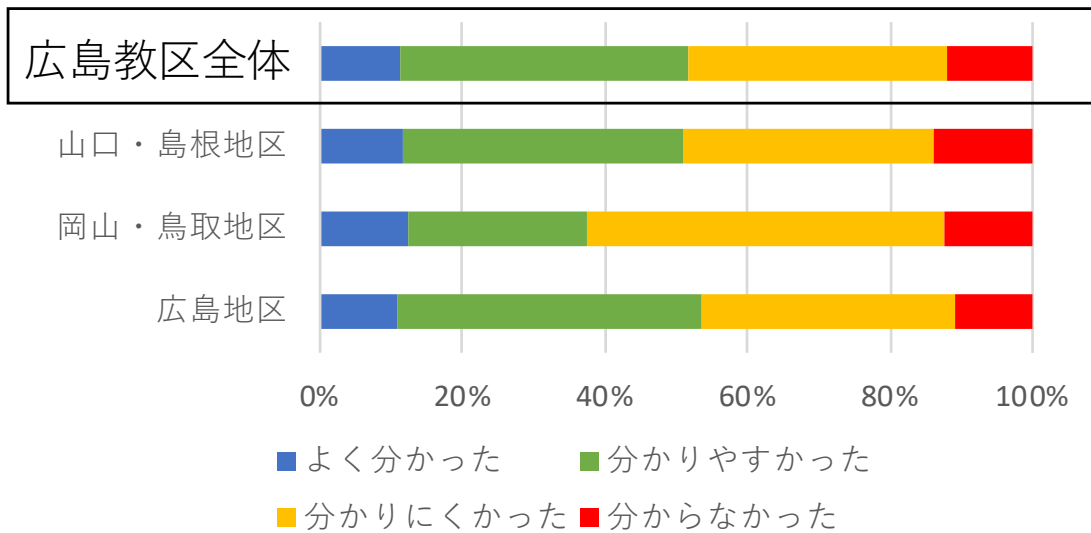
Q5. 「多文化共生推進」の実践は・・・



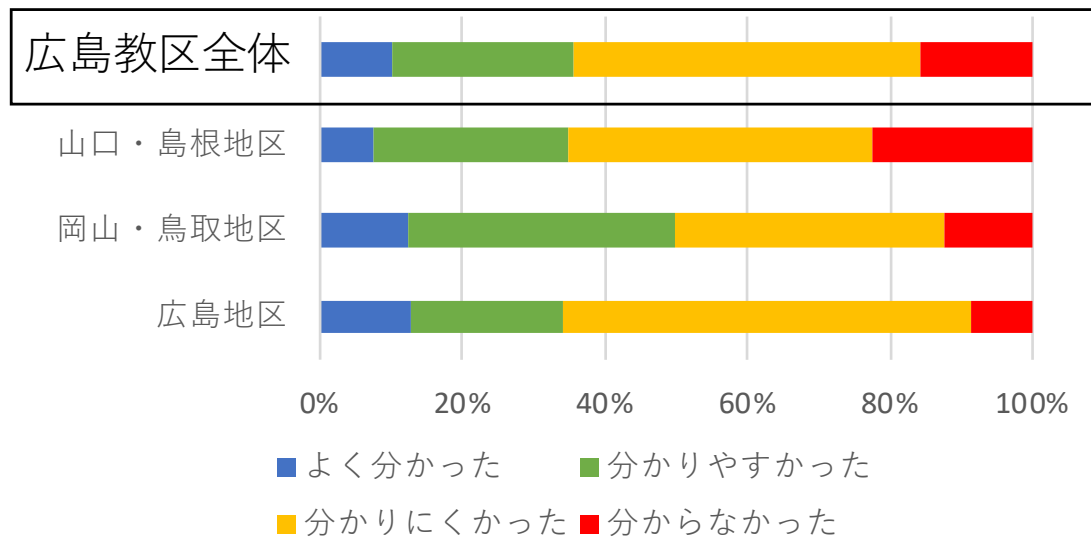
Q6. 「優先課題」について・・・



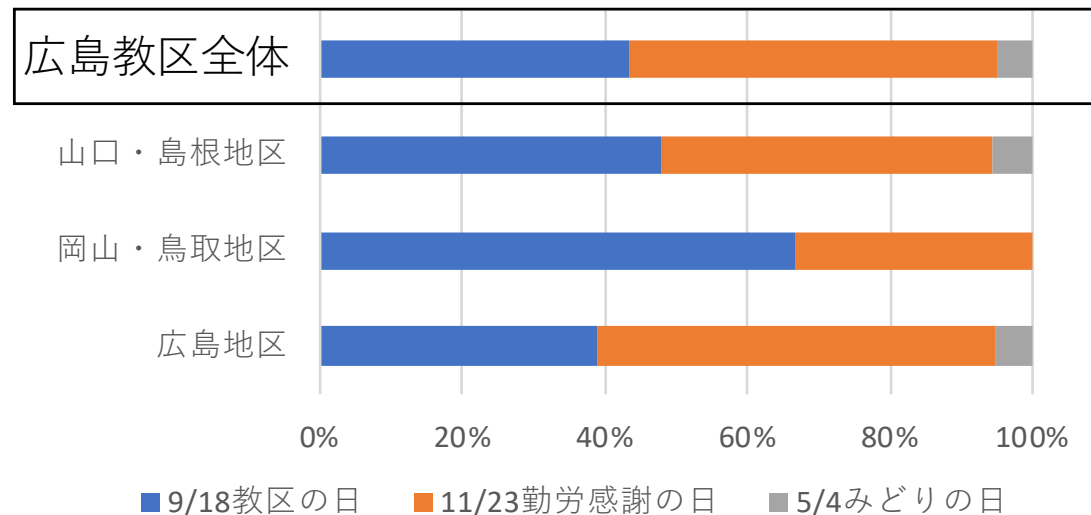
Q7. 「教区の宣教司牧テーマ」について・・・



Q8. 「3本柱・優先課題・宣教司牧テーマ」の固有性や関連性について・・・



Q9. 100周年記念ミサの開催日について・・・



【報告書の部】

1. 教区の歩みを振り返る

[1] 3本柱と4つの推進事項

① 「平和」・「きょうどう」・「養成」の三本柱（アンケート集計結果Q1参照）

●良く分かった、分かりやすかった理由等

教区宣教司牧活動の基本方針「平和の使徒となろう」のあらゆる活動の源泉として、掲げられた3つの柱が適切で、宣教司牧の目標および取り組み方向性を提示していた。また、三本柱は非常に納得でき、信仰のあかしをするのに漠然とするより三つに整理されていることで、考えて行動できるとのことを、分かりやすかった理由として挙げてあった。

また、三本柱を含む基本方針の説明や手引きを「ガイドライン」（図表を含め）として示すこと、さらに平易な文言を用いることで理解を深めることに役立っているとの意見も見られた。

さらに三本柱等を司祭による講話、教会内での活動の際に提示することで、分かったと答えた各人の意識の中に残っていったとの意見も見られた。

ただ、三本柱について分かっているもどのように活動して良いか実践に困難を感じていることも事実である。また、継続性がなかったと感じられた方もいたようだ。

●分かりにくかった、分からなかった理由等

三本柱が大きなテーマを扱っており、抽象的で具体性に欠けている、特に「きょうどう」は、ひらがな表記であったことにより、「共同」「協同」「協働」など捉え方が多数あり、取り扱う領域も広がったことが抽象的であるとのことを、分かりにくかった理由として挙げられていた。

また、教区から提示される基本方針、三本柱、優先課題や宣教司牧テーマ及びサブテーマ等標語などが多数あり、それぞれとの関連性がわかりにくく、宣教司牧への強調点がぼやけていると感じられた方もいたようだ。

さらに具体的な指針や取り組みの提示、説明が無かったとの意見もあった。そして（個人的に）理解できていないので分からないと答えた方もいた。

●分析結果

以上のことから、宣教司牧の目標等を説明する文書（図表を豊富に使用した小冊子）を作成し配布することは、有効な手段であると再認識したが、一方で文書を配布した後、新

たに広島教区へ所属した信者等への配慮が必要であると考えられる。

さらに、文書を配布するだけでなく、それを説明する機会や継続的に提示（講話、分かち合いや文書配布等）していくことも大事であると再認識できる。

教区が提示する基本方針、宣教司牧目標や課題等は、何に対する事柄であるか明確に示すことにより、その目標や課題の意味づけをハッキリさせることが必要であると考えられる。

なお、情報伝達において、教区から直接信徒一人ひとりに伝達するのではなく、教区は地区へ、地区は各小教区・修道院へ、各小教区・修道院は、各信徒・各会員へ伝達することが望まれる。教区が数万人の信徒一人ひとりに対応することは現実的でないと考えられる。ただし、各信徒が直接情報を入手したいときは、教区のホームページ等を活用することにより可能と考えられる。

②「平和推進」の実践（アンケート集計結果Q2参照）

●実践できた理由等

大規模災害の支援活動、平和行事への参加、核廃絶や軍事施設設置反対活動及び原子力発電所設置反対活動に関わったことを、実践できた理由として挙げられていた。

また、前例の活動を題材とした各種講演会、学習会、署名活動等を各地区、小教区や労働教育センター等が企画し、それに参加することを、実践できた理由として挙げられていた。

さらに身近な実践として、広島原爆の日・長崎原爆の日・終戦記念日に信徒が集まり「平和の鐘」を鳴らして祈る集いをしたり、ミサの中で平和を祈願したり、心を開いて互いを認め合うことを、実践できた理由として挙げられていた。

●実践できなかった理由等

意識の問題で実践できなかった理由を挙げている傾向がある。例えば、平和推進を意識していない（意識が薄い）、組織的な社会活動（反対運動等）への参加について必ずしも社会活動が必要と思えない、平和運動の取り組みの意欲低下、平穏無事な時代であり社会へアピールする意識がないなどの理由が挙げられていた。

一方、意識や学習等をしていても、具体的な実践機会、年齢的（高齢化）のために実践することができていないと感じることも挙げられていた。

また、呼びかけが不足している、参加する人が偏っている、と感じることもあるようだ。

ただ、祈りや共同祈願で平和を願うことはあったようだ。

●分析結果

以上のことから、「平和」の扱う分野が、平穏無事であること、戦争が無い状態及び主の平和等と、捉え方で意味が少しずつ違い、取り組み活動も限定されてしまう傾向がある。

「平和」を、神の国を完成させるため、人々の間に戦争が無い状態にし、全ての人が平穏無事であることが実現し、神が与えてくださる平和を受容できるような状況を目指すことを心構えとして考えることが必要である。

③「きょうどう推進」の実践（アンケート集計結果Q3参照）

●実践できた理由等

信徒個人や修道者個人として、小教区や協働体など各レベルでの役割（教会役員・委員会・部会等）、各種行事へ参加したことを、実践できた理由として挙げられていた。

小教区内では、生き生きしたミサ、ミサ後の茶話会等の交流の場の提供、新しい信者や新しく知り合った人との交流があったこと、信徒同士（多国籍信徒とのきょうどう含む）の協力もできていることを実践できた理由として挙げられていた。

協働体では、距離的に交流しやすい協働体において、共同ミサ、協働体行事を共同で開催したことを実践できた理由として挙げられていた。

地区については、地区からの協力依頼により小教区が地区の行事の協力することがあったこと等が挙げられていた。

小教区外との「きょうどう」については、社会福祉等の施設との交流、災害被災地等への支援等ボランティアなどを、実践できた理由として挙げられていた。

また、信徒、修道者、司祭間の協働が以前より促進されたと感じる、との意見があった。

●実践できなかった理由等

「きょうどう」することを努力しているが「実践できた」かについて不明であること、きょうどう推進の活動内容が見えてこないこと、具体例が示されていないことによる何を実践するか把握していないことを実践できなかった理由として挙げられていた。

また、きょうどう推進の内容を理解していないこと、意識が低かったり意識していなかったりと「きょうどう」自体を把握していないことを実践できなかった理由として挙げられていた。

●分析結果

以上のことから、意識している信者と意識していない信者で、「きょうどう」に対する理解度、実践度にばらつきがあること、色々な意味を含むひらがなのきょうどうであったため、扱う範囲も広く、また他の推進項目のように単独で課題が存在する項目ではなかった点が、難解な宣教司牧活動の推進項目になったと考えられる。

しかし、宣教司牧活動を実践するためには、複数の人、グループ、小教区等の単位での共同・協働・協同・共働が、必要であったり有意義であったりすることを考えると、必要不可欠な要素といえる。

また、信徒個人同士の「きょうどう」については小教区がどうサポートできるか、小教区同士のきょうどうについては協働体が、協働体同士については地区が、地区と地区または教区全体での「きょうどう」では教区がどう最適なサポートできるかを単位別で検討する必要があると思われる。

④「養成推進」の実践（アンケート集計結果Q4参照）

●実践できた理由等

信徒個人、修道者個人や数人の小グループとして、小教区や協働体など各レベルでの研修会、学習会や養成講座へ参加したこと、聖書通読・写経など個人で取り組める活動を通して聖書や信徒生活での霊性を高める努力などを実践できた理由として挙げられていた。

小教区内では、信徒養成講座等（聖書研究、入門講座、教会学校、典礼等の勉強会など）を開催していたことを実践できた理由として挙げられていた。

協働体、地区や教区では、小教区において開催が難しい講座等を中心に、信徒養成講座等を開催していたことを実践できた理由として挙げられていた。

なお、実践できているが協働体や地区等の養成講座等を受講した後、小教区内での分かち合いが無いこと、教会学校に関して家庭（主に保護者）の協力が十分でないことを指摘してあった。

●実践できなかった理由等

養成すること（養成されること）を努力しているが「実践できた」かについて不明であること、他人はしているが自分はできていないことを理由として挙げてあった。

また、誰が誰を養成するのか、例えば、司祭が信徒を、養成された信徒が養成されていないと思われる信徒をなど教師と対象者が不明であることを指摘してあった。

●分析結果

以上のことから、小教区、協働体、地区や教区単位での信徒養成講座等の実施について、引き続き有意義であることが確認された。

なお、その養成講座等を受講する人について偏りが無く受講することや養成することは今後の信徒の生涯養成に不可欠な要素として考えられるため、体系的（段階別・分野別）な養成のカリキュラム、コンテンツや講師について教区全体の課題として検討することが必要と思われる。

⑤「多文化共生推進」の実践（アンケート集計結果Q5参照）

●実践できた理由等

信徒個人、修道者個人や数人の小グループとして、外国語ミサへの参加、バーベキュー等行事への参加、日本語ミサに外国人の参加が見られる時には話しかける、外国人問題の学習会への参加などを、実践できた理由として挙げられていた。

小教区内では、外国籍の方に主日ミサで奉仕の一部を担ってもらう（例えば、朗読の一部、聖歌の一部、共同祈願の一部を外国語にする）こと、小教区内での役割を担ってもらうこと、小教区行事に参加することの呼びかけ、日本語教室の実施を実践できた理由として挙げられていた。

地区や教区では、J-CaRM への参加などを実践できた理由として挙げられていた。

●実践できなかった理由等

小教区によっては、地域に居住している外国人が少ないため教会へ来る外国人がいないこと（極端に少ないこと）、言葉の壁の問題から個人や小教区として交流することに消極的であることを、実践できなかった理由として挙げられていた。

●分析結果

以上のことから、小教区によっては、積極的に外国籍の方にミサ奉仕の一部、教会役員や役割を担ってもらっていることが判明した。ただ、地域によっては、外国人との交流がないことも事実であろう。

しかし、今後、都市部と産業が活発な地域では、外国人が増加していく傾向にあり、必然的に教会へ来られる外国籍の人も増えるものと予想される。

よって、小教区でのミサ、小教区運営や行事運営において、どう外国籍の人と共生、きょうどうしていくかを検討する必要がある。そのために、協働体、地区や教区はどんなサ

ポートができるのか、必要なかを研究することや小教区からの要望を聞く必要があると考える。

[2] 優先課題と宣教司牧テーマ

⑥優先課題（青少年育成・召命促進・教区共通カテキズムの作成・津和野の証人の列聖）（アンケート集計結果Q6参照）

●よく分かった・分かりやすかった理由等

優先課題の（伝えたい）内容、優先課題自体の具体的な形、優先課題が教会の身近な問題（課題）として挙げられており、それが必要と感じていることを分かりやすかった理由として挙げられていた。

挙げられている優先課題について信徒が賛同しやすいこと、青少年などが青少年向けのプログラムへの参加があったこと、優先課題によっては資料、祈りや小教区などの広報紙によって内容を伝えてあったことなどを分かりやすかった理由として挙げられていた。

ただ、分かりやすかったと回答した中でも、優先課題が注意喚起としての語句、ことば自体（例えば、カテキズムなどの用語）の難しさを指摘する意見もある一方、津和野の証し人の列聖や教区共通カテキズムの完成を望む気持ちも表してあった。

●分かりにくかった・分からなかった理由等

分かりやすかった理由と相反する理由として、それぞれの優先課題の説明不足により多数の信徒が理解していないこと、なぜ優先課題が必要か、優先課題になぜ列聖があるのか、信仰は優先課題で培っていくのかを疑問に思うことを分からない理由として挙げられていた。

また、優先課題が、多く列挙されていると感じること、自分の信仰生活とかけ離れていると感じること、どのように取り組めばよいか分からなかったこと、そもそも知らなかったことや意識しなかったことを分からない理由として挙げられていた。

小教区によっては、教区の優先課題と小教区の優先課題あるいは課題または宣教司牧活動との関わりが難しいと感じているようである。

●その他の意見等

優先課題が、教会の内向きなものとして感じられたり、優先課題自体について小教区に

において説明が無かったりして、優先課題自体の浸透と優先課題と宣教司牧テーマとの関連性や独立性等が明確になっていないとの意見や優先課題と宣教司牧テーマを説明する役割は司祭にあるとの指摘もあった。

●分析結果

以上のことから、優先課題が、なぜ数ある課題の中から優先して取り組むべき課題として列挙するのか、課題達成の目標・方法等丁寧に資料を交えて説明する必要があると考える。その説明を小教区等で担うのは、まぎれもなく司祭であり、小教区の牧者として十分に所属する信者へ伝達する責任があるものと考えられる。

そのため、教区、地区、協働体は、どのようなサポートができるのかを検討する必要があると考えられる。

なお、今回のアンケートの「優先課題」は、教区が取り組む優先課題であった。一方、小教区をはじめ、信者個人、協働体、地区それぞれに信仰生活・宣教司牧活動の課題があり、その中から優先的に取り組むべき課題を教区の優先課題とは別にそれぞれの優先課題があるものと考えられる。

⑦教区の宣教司牧のテーマ（家庭・教会・社会へのチャレンジ）

（アンケート集計結果Q7参照）

●よく分かった・分かりやすかった理由等

テーマの分類が適切だったこと、身近であったことを分かりやすかった理由として挙げられていた。

信仰継承のステップとして、具体的な行事や宣教司牧活動として取り組みやすかったとの意見があった。また、テーマがあることで、目標を掲げたり、テーマに沿った祈り、教会のお知らせなどで、度々、見たり耳にする機会が設けられ意識することになったとの意見もあった。

ただ、分かりやすかったと回答した中でも、「チャレンジ」ということばから自分を変えるのではなく他者を変えようとする意識が働いたり、「家庭へのチャレンジ」については、子どもが教会へ行く機会が少なくなっているとの意見もあった。

●分かりにくかった・分からなかった理由等

テーマをどう捉えてよいか分からなかったことを理由として挙げてあった。

また、小教区等への具体的な宣教司牧活動の方法や指針の提示及び小教区での具体的

活動の設定や継続が難しいとのこと、イエズス会司祭の司牧が長く教区からの課題を小教区等であまり取り組んでこなかったこと、「チャレンジ」という語句以外のことばの選択は無かったのか、といった意見があった。

●分析結果

以上のことから、教区の宣教司牧テーマが信仰生活を取り囲む身近な場であったことで、テーマの理解はされやすかったと考えられる。分かりやすかったと回答したグループでは具体的な目標や活動を実施したが、分かりにくかったと回答したグループでは具体的な活動項目や指針の提示を求める意見が出されている。これも前項目アンケートと同様、小教区によって信者への説明不足があるものと考えられる。

また、テーマの語句の選択については、平易ながら誤解を与えることのないように設定することが必要であると考えられる。

⑧前項①、上記⑥⑦の3種類の目標や課題などの固有性や関連性について (アンケート集計結果Q8参照)

●よく分かった・分かりやすかった理由等

三本柱、優先課題と宣教司牧テーマの、それぞれとの関連性に言及するものは無かった。同様にそれぞれの固有性を明確に指して分かりやすかったとする理由の言及も無かった。

優先課題の青少年育成・召命促進・教区共通カテキズム作成の連続性が、教会の抱える課題として分かりやすかった理由として挙げられていた。

分かりやすかったとの理由になるのかは不明だが、それぞれの固有性や関連性について、説明資料があったこと、祈り(祈祷文)があったこと、教会の広報等に関連の記事掲載があったことなどが分かりやすかった理由として挙げられていた。

また、「列聖運動」について、社会や文化面の状況への危機感を内省して運動しなければ独りよがりとなる危険性があるとの指摘があった。

●分かりにくかった・分からなかった理由等

優先課題と宣教司牧テーマの関連性が難しいこと、それぞれ決定した時期や人物(決定機関)が違ふことで関連性が見受けられないことを分からなかった理由として挙げられていた。

なお、固有性や関連性に関する理由以外の理由や意見が多く見受けられた。例えば、目標は一つに絞る、具体的な指針や具体的な活動の提示、そもそもそのようなメッセージ

(三本柱・優先課題・宣教司牧テーマ?)があることを知らないこと、列聖を優先課題にする理由が不明なこと、教会が少子高齢化の中で高齢者が青少年や召命等の課題に取り組むことについての関連性の意義についてなどの意見があった。

●分析結果

以上のことから、三本柱、優先課題と宣教司牧テーマの関連性に関して、教区民が受け止めているとおり、緩やかな関連性はあるものの、明確に説明できるほどの関連性はなく、特に優先課題の提示は、それまでの教区の宣教司牧活動の流れとは別に示された印象を与えたことは間違いないと考えられる。

ただ、宣教司牧テーマは、「家庭と教会で養成され、社会へ宣教に出かける」一連の関連性があることを理解している信者もおられることが確認できた。

なお、明確な言及はなかったものの、それぞれの固有性はあったものと考えられる。

このことから、キリスト教徒の使命である「神の国の完成」と、神の国の完成を広島教区民としてどのように参与していくか、という使命としての「平和の使徒となろう」をどのような精神で行動していくかを検討し、神の国の完成を構築していく一つの単位としての教区、その教区が直面する数ある課題の中から優先すべき課題を見いだすこと、また世界や日本の教会がどの分野・項目の宣教司牧活動に力を入れているのかを教区民全体へ周知する方法等を検討する必要があると考えられる。

[3] 宣教司牧テーマの実践

●実践したこと（家庭へのチャレンジ）

子どもたちが教会に来やすい雰囲気作り、信徒名簿を見直し教会へ来られていない方への家庭や施設等への訪問希望の確認、信仰体験等の分かち合い、教会広報紙への記事掲載、家庭内で食事の時などにお祈りを家族とともにすること、家族内での会話を楽しむことなどを実践した。

●実践したこと（教会へのチャレンジ）

一人一役を心がけて教会へ奉仕（ミサ奉仕や役員等含む）、小教区内で部会を立ち上げでの仲間作り、他小教区・協働体・地区の祈りの集いの参加、行事・黙想会・講演会等への参加、通夜を信徒だけで運営、教会行事（バザー、コンサート等）の地域住民等への告知や招待、地域行事への参加、災害支援（被災者の招待、被災地への訪問や支援活動）、外国人信徒との交流・ミサ奉仕の役割分担などを実践した。

●実践以外の意見等

実践例を問う設問でしたが、信徒減少による主日の典礼・教会施設の維持及び教会行事準備と実施するだけで教区の宣教司牧テーマを実施する余裕がない、抽象的なテーマで小教区としてどう取り組むべきか不明、実践的な活動の指導や他小教区の実践紹介が必要、できることはやっているができないことはできない、すでに実施している又は意識せずとも実施している、テーマが3年毎ということが相容れないなどの意見があった。

●分析結果

以上のことから、多くの小教区、協働体、地区として宣教司牧テーマに沿った活動等を実践していると見受けられる。ただ、小教区等によっては、信徒の減少などの原因により現状を維持することが精一杯になっており、自身の信仰を成長させる余裕が無いように見受けられる。

よって、そのような小教区等をサポートするため、協働体、地区、教区として何が必要であるかを検討する必要がある。

2. 「教区創立 100 周年」の迎え方・祝い方を考える

[1] 「社会へのチャレンジ」について

● どのような取り組みを実践する予定か

フランシスコ教皇来日メッセージやラウダート・シで明快な方向付けがなされておりそれを具体化する予定、平和を築くそのために声を上げる、へりくだりと平安の心で質素に暮らすなどが挙げられていた。

また、小教区で取り組みを検討するため小教区宣教司牧評議会を招集して出た意見として協働体委員会で話し合う、宣教司牧評議会でも話し合うことなど具体的な取り組みを検討・決定する方法が挙げられていた。

一方、実践項目では無く具体的な実践場所を挙げる回答も見受けられた。例えば、働く場（職場等）、教会内外など。

具体的な取り組みは未定（今後検討、現時点で未決定含む）、自分ができることをするなど未決定であることの回答も多くあった。

■ 1年目の「いのち」の実践予定等

教会学校や保護者の会で信仰の芽を育む、高齢や病気で教会に来られない信徒とのつながりを保つ（見守り含む）、教皇来日メッセージを振り返り考える、障害者施設との連携、自死・孤独死の問題を含む命の尊さ、貧困問題、災害等被災者の現状把握と障害克服（風評被害等）、移住移動者との共働、防災・減災・防犯のこと、いのちに関する奉仕活動や募金活動などが挙げられていた。

■ 2年目の「環境」の実践予定等

小教区の環境として居心地の良い教会雰囲気作り、社会（資源）環境としてレジ袋・家庭ゴミ（廃棄物）・無駄遣い（大量消費・大量廃棄の否定）の減少に努力、自然環境として核兵器廃絶・原子力発電所の廃止とクリーンエネルギーへの転換などが挙げられていた。

■ 3年目の「平和」の実践予定等

平和を構築するために身近な人、世代、国籍を超えての共生、国際的な視点では戦争・紛争の無い世界の構築、また神との平和に力を入れるなどが挙げられていた。具体的には教会内で平和について分かち合う、出会う人への声かけ、教皇メッセージなどの勉強会、難民支援、平和に関する行事への参加などが例として挙げられていた。

●アンケート回答者からの質問

実践例を問う設問でしたが、次のような質問があった。「教区が描いている姿はどのようなものか、小教区へ何を望んでいるのか」という質問が出された。

●宣教司牧テーマへの意見

さらに、実践例を問う設問でしたが、毎年サブテーマを区切ることが分からない、前テーマと同様に自由度が大きすぎて取り組みにくい、教区あるいは地区単位で取り組むテーマを絞った方が良い、教区からテーマに沿った活動方針を出してほしい、テーマや取り組みの例示並びに学習会を希望、高齢者修道院ではアイデアが無く現状維持が精一杯、これまでの（宣教司牧？）活動が続ける、1年ごとのサブテーマでは次の年になると前の取り組みが放置されるのでは無いか、などの意見が出された。

●分析結果

以上のことから、小教区等における「社会へのチャレンジ」に関しての宣教司牧活動について、まだ具体的な活動計画を立案するところまでは至っていないと思われる。しかし、計画立案のためにどのような協議・検討をしていくのかを考慮しており、さらにサブテーマ毎に取り組む分野や項目をある程度整理している小教区等も見受けられる。

一方、教区や地区は小教区等へ何を求めているのか、活動方針や活動の具体例の提示等を求める小教区も見受けられる。

小教区等が主体的に宣教司牧活動を行うことを期待するため、教区としては大きな枠での宣教司牧テーマを示すことにとどめ、宣教司牧活動の現場となる小教区等をサポートするため、協働体、地区、教区はなにが必要か検討する必要がある。

[2] 「教区創立 100 周年」のあり方について

①記念ミサをおこなう日（アンケート集計結果Q9参照）

●候補順位（アンケート回答ではだいたい設問順の順位で希望していた）

- ①2023年09月18日（祝）・・・教区の日
- ②2023年11月23日（祝）
- ③2023年05月04日（祝）・・・津和野乙女祭の翌日

<その他の提案日>

- 2023年05月03日（祝）・・・津和野乙女祭
- 2023年11月24日（金）・・・教皇フランシスコ来広記念日
- 2023年04月30日（日）・・・創立記念日に近い主日
- 2023年05月07日（日）（同上）

●分析結果

以上のことから、教区の日（9月18日）や11月23日の秋開催を望む回答が多数を占めた。比較的教会行事（典礼暦から見ても行事）が少ないと思われる時期を希望していることが分かった。

なお、実際に記念ミサを開催する場合、当日の行事規模、時間帯、前後の催し物、場所などを含め検討する必要がある。これらのことは、次の設問での分析に詳しく記述する。

②関連行事について

●形式

- 地区、小教区毎の記念ミサ（国際ミサ含む）
- ロザリオの祈り
- 講演会（キリシタン史、平和問題（被爆体験含む）、司祭、今後の教会、教会（教皇）文書など）
- 分かち合い（交流の集い、今後の教会、三姉妹教区、信仰体験談など）
- 青少年・外国籍の主張（弁論会・演説会）
- 功労者の表彰
- 劇（人形劇など）、フェスティバル
- コンサート（演奏、歌唱）
- 写真展等展覧会

●関連行事への意見

関連行事の提案をしていただく設問でしたが、教区から行事案や指針を提示してほしかった、関連行事が必要なのか、などの意見も出された。

また、関連行事の調整や実施にあたって、各地で検討したものを（教区・地区）宣教司牧評議会又は教区代表者会議で調整すること、記念の歌（テーマソングなど）の作成希望の提案もあった。なお、今後の教会活動を担うであろう青少年や外国籍の人をメインにするような行事開催を望む意見が多く出されていた。

●分析結果

以上のことから、祈りの場、信仰や宣教司牧活動に関する講演会、お祭り（フェスティバル）的な催し物まで、さまざまな形式が提案されていた。中心とする対象者を青少年や外国籍を薦める声も多いことが判明した。

関連行事を記念ミサと同日にプログラムするのか、地区単位・小教区単位でも開催できる関連行事、教区一致のしるしと 100 周年後も広島教区として歩む未来を示すことのできるものとしての関連行事は何かを検討する必要がある。

3. 教区創立 100 周年後の新たな教区の優先課題や目標を考える

[1] 今後、継続または新たに加える課題や目標について

●継続すべきもの

継続すべき優先課題や目標として、三つの柱の区分では「平和（核兵器廃絶・平和推進行事など含む）、養成、多文化共生」、優先課題では「青少年育成、召命促進」、宣教司牧テーマでは「家庭、社会」を引き続き継続すべきこととして挙げられていた。

●追加希望もの

追加を希望する優先課題や目標として、平和と共生の社会づくり、いのち（「誕生から死まで」や教皇フランシスコ「Protect all life」に沿った課題・目標）、社会へのアプローチなどが挙げられていた。

●提案等に伴う意見・感想など

多くの意見や感想も見られた。例えば、既存の課題に取り組みながら新たな優先課題を取り組むための行事や会議が増加すると思われるので整理が必要、小教区で事情が違うため現在取り組んでいることを引き続き取り組む、標語をきれいにまとめても仕方が無い、教区の目標が小教区で独自のカラーを出そうとする傾向になってはいけない、小教区で活動するための課題や目標を具体的に示してほしい、積極的に知ろうとする態度が無かった、などがあった。

●分析結果

以上のことから、宣教司牧活動のための三つの（精神的な）柱、教区が取り組む優先課題、世界の教会・日本の教会と福音宣教する方向を一致させるための教区宣教司牧テーマをよく整理し、小教区が必要とするものを継続及び追加・削除をしていくことが必要と考えられる。

当然、小教区毎に独自の宣教司牧課題やテーマがあり、その宣教司牧テーマが世界や日本の教会と歩調を合わせたものであることが理想的である。キリストの体の一部を構成する教区と、教区を構成する地区・協働体・小教区が世界の教会の一部として一致してあゆむことが大事であると考えられることから宣教司牧テーマは引き続き重要な位置を占めるものと考えられる。

なお、養成を引き続き継続すべきものとして挙げられた理由では、信徒養成、特に教会学校の復興や青少年の育成（保護者の養成含む）が目立った。信徒の生涯養成を体系的に構築することも優先課題（なお、第一弾は「教区共通カテキズム作成」を実行中）になり

うるものとする。

[2] 多国籍化・少子高齢化・信徒や修道者・聖職者召命減少下での今後の教会機構・組織のあり方、工夫について

●教会機構・組織のあり方

教会機構・組織のあり方では、組織はできる限りシンプルで、小教区・協働体・地区・教区が連携しやすいもの、小教区等の役員・委員会人事において積極的に外国籍信徒の参加などが挙げられていた。

教会は少子高齢化である現状、高齢者が教会運営を担いにくくなっているため、もっと現役世代や青少年に担ってほしいとの意見も挙げられていた。

●工夫

信者が多国籍化、少子高齢化、邦人信徒の減少、修道者や聖職者への召命減少が顕著になっている現在、これらの現状で今後の教会を運営するための工夫について、カテキスタとなる信徒の養成（集会祭儀司式者含む）、その中で有償での教会スタッフの配置、叙階の恵みを受ける終身助祭への召命の道、世代交代を円滑にするため高齢者と現役世代・青少年との交流会、多様な人が意見を言い合える場の提供、信者一人ひとりに与えられた力・タレントの提供などが挙げられていた。

●教会機構や組織に対する意見・感想など

教会機構や組織に対する意見や感想として、少子高齢化から信徒の減少を起因とする小教区等の統廃合を意識していることへの意見、外国籍の方が増加することによる教会一致を目指すために外国籍の方への援助（日本語教育、生活問題など）や協力の必要性、主任司祭中心主義を変えるための司祭教育のことなどの意見があった。

また、組織されること自体を好まないこと、情報共有の強化、小教区では組織的な活動が困難である場合は、協働体での活動を視野に入れることなどの意見もあった。

●分析結果

以上のことから、小教区から教区へ請願することで小教区の統廃合も考えられるが、将来の希望として外国籍の信徒が増加しており、教会運営へ積極的に関わっていただくことを考え、地区・教区がどのようなサポートができるか検討する必要がある。

教区レベルでの教会機構・組織は教会法の枠内で、シンプルかつ機能的な機構の構築を模索し、地区・小教区へのサポートが有効的にできるものを検討する必要がある。

また、人材養成・開発に関しては、教区として体系的な養成をおこない、カテキスタ、終身助祭を含めた修道者・聖職者の召命増加を見据えての取り組みを検討する必要がある。

[3] 前項に関連して小教区・地区・教区での行事・活動の工夫について

●小教区での工夫

小教区等における多国籍化・少子高齢化・召命減少の中で考えられる工夫として、ミサや祈りなど典礼を中心にする事、ミサ奉仕（侍者・朗読奉仕・聖体授与の臨時の奉仕などの奉仕職）の司祭の責任における指導や養成、外国籍の信徒とのきょうどう（ミサ奉仕への参加、外国籍主体の行事など）、教会から遠ざかっている人への声かけ（連絡）、仲間作り・巡礼旅行、運営委員会の位置づけの明確化、活動毎に実行委員会の設置（教会役員への負担軽減・仕事の分散）、無理のない行事实施、身の丈に合った行事・活動の実施（行事・活動の見直し）、病者訪問・聖体訪問など信徒による巡回訪問を増やす、小教区内の地区（地域）会の強化などが挙げられていた。

●協働体・地区・教区での工夫

小教区単独では開催が困難になった教会行事（黙想会など）を協働体として開催、他地区で良いものは参考にすることが挙げられていた。

●行事・活動への意見や感想など

青少年行事が小教区と地区・教区との間で日程等の設定がバラバラであること、行事・活動は霊性に基づいていないと一過性になること、外国籍の方への対応は「もてなし」から「共働」へ段階移行、集会祭儀が信仰教育に良い影響を与えていること、教会が何かするというより個人が地域行事等へ参加することで福音を告げること、司祭が教区行事について取捨選択して伝達することは困る（情報伝達の遮断）こと、などの意見があった。

●分析結果

以上のことから、小教区は現状に合わせた行事・活動を検討することを考え、地区・教区は小教区に対してどのようなサポートができるか検討する必要がある。その場合、行事・活動日程がなるべく重ならないような調整が必要である。

以上

【資料の部】

BISHOP'S OFFICE
4-42 NOBORI-CHO
NAKA-KU HIROSHIMA
〒730-0016 JAPAN

PROT.N.

DIOCESE OF HIROSHIMA



ALEXIS MITSURU SHIRAHAMA

DEI ET APOSTOLICAE SEDIS GRATIA EPISCOPUS HIROSHIMAENSIS

2019年11月1日

小教区の主任司祭・修道院の院長 各位

広島教区 司教 アレキシオ 白浜 満

「2020 広島教区代表者会議」に向けての準備について

＋主の平和

教皇フランシスコが制定した「福音宣教特別月間」が終わり、11月を迎えました。10月20日は、すべての小教区で、そのための一斉ミサをささげていただき、どうも有難うございました。

広島教区では、この特別月間から、来年11月23日に開催する「2020 教区代表者会議」に向けての準備に入りました。教区代表者会議で取り扱われる内容が、できるかぎり、広島教区民全体の意見を反映したものとなるよう、すべての小教区と修道院に「2020 教区代表者会議に向けてのアンケート」に対するご協力をお願いすることになりました。そのための資料（5部）を同封しています。

- ①「2020 広島教区代表者会議」に向けてアンケートのお願い（手紙）
- ②「2020 広島教区代表者会議」に向けてアンケート（本体）
- ③「広島教区 2005 教区代表者会議→2020 教区代表者会議までのあゆみ（ロードマップ）」

①のお願いの手紙に従い、すべての小教区と修道院で話し合いの場を設定して、②のアンケート(本体)に答えていただけないでしょうか。その後、小教区と修道院毎にアンケート（1部）を、今年12月29日までに、各地区センターへ、送付していただきますよう、よろしく願いいたします。

③の「あゆみ（ロードマップ）」は、過去2回（2005年と2010年）、開催された教区代表者会議から、第3回目となる来年の教区代表者会議までのあゆみを振り返り、今後のロードマップを示す資料です。各共同体で話し合いの機会を持つときに、司会をしてくださる方が、事前に目を通して、説明のために使用していただければと思います。

なお、各小教区や修道院で話し合いの機会を持つときに、教区代表者会議の実行委員会のメンバーが説明に伺うこともできますので、平和の使徒推進本部（082-221-6613）まで、ご連絡ください。

どうか、皆様の積極的なご意見やご要望を、よろしく願いいたします。

以上



2020 広島教区代表者会議テーマ
ともに喜びをもって福音を伝える教会へ



「2020 広島教区代表者会議」に向けてアンケートのお願い

2019年11月 1日

平和の使徒推進本部

2020 広島教区代表者会議実行委員会

† 主の平和

広島教区は、教皇フランシスコの呼びかけに応え「ともに喜びをもって福音を伝える教会」を目指して2020年11月23日に教区代表者会議を開催します。そのため、「福音宣教特別月間」の2019年10月20日から、来年の教区代表者会議に向けて1年間の準備をおこないます。

「2020 広島教区代表者会議」は、以下のことを目的として開催されます。

- ① 教区のおよびを振り返る（2010年の教区代表者会議から現在まで）
- ② 「教区創立100周年（2023年）」の迎え方・祝い方を考える
- ③ 「教区創立100周年（2023年）」後の教区の新たな優先課題や目標を考える

そこで、代表者会議実行委員会は、教区民の皆さまと、これまでのあゆみを振り返り、分かち合い、ご意見をまとめながら、教区代表者会議に向けて準備していくために、各小教区・巡回教会・修道院単位のアンケートを実施することにしました。ただし教区の4つの優先課題「青少年育成」・「召命促進」・「教区共通カテキズムの作成」・「津和野の証人の列聖」については、担当の委員会からの振り返りと進捗状況の報告をおこなっていただく予定です。

教区民の皆さまのご理解とご協力の程、よろしくお願ひ致します。

【アンケートの回答〆切】

2019年12月29日(日)まで

【アンケートの提出先】

各地区センターへご提出ください。

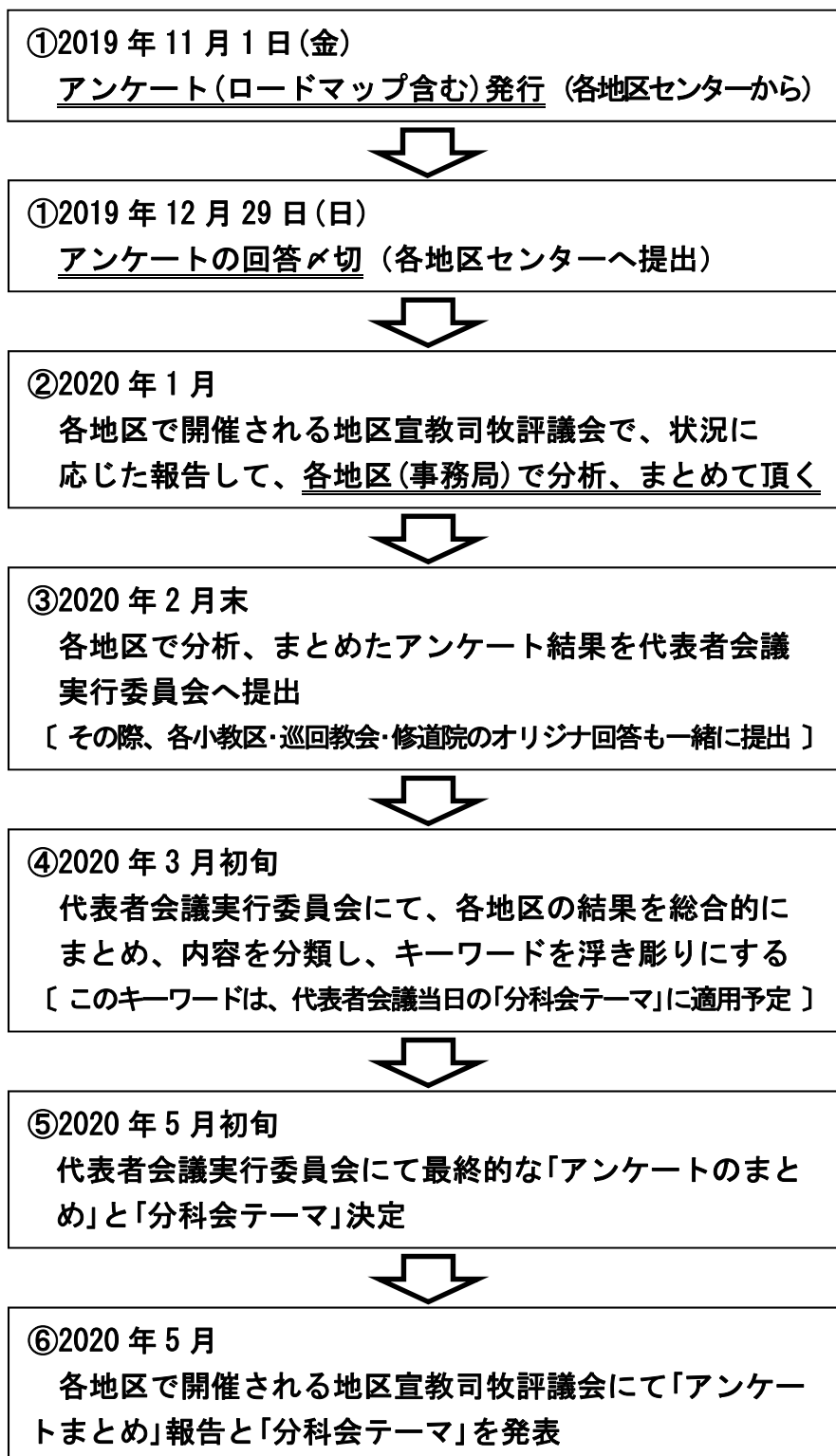
- ◆岡山鳥取地区センター（米子教会を含む）
- ◆広島地区センター（松江教会・出雲教会を含む）
- ◆山口島根地区センター

【お願ひ】

アンケートにご回答頂く上で、各小教区・巡回教会・修道院の諸事情があること、また、短い期間で教区代表者会議に向けた準備、活動をおこなっていくことに、多少の弊害があることは否めません。そうした懸念を緩和して頂くためにも、各地区単位のご支援が最も重要となるのではないかと思います。

そのため、この度のアンケートは次の流れでまとめていく予定です。

【アンケート実施の流れ】



【アンケートに関するお問い合わせ】

平和の使徒推進本部(兼：代表者会議実行委員会)へお問い合わせください。

〒730-0016 広島市中区幟町4-42 広島カトリック会館内

TEL：082(221)6613 (月・火・木・金・土曜 9:00-17:00)

FAX：082(221)6019

E-mail：pcaph@hiroshima.catholic.jp

以上

「2020 広島教区代表者会議」に向けてのアンケート

ご回答： 教会 または 修道院

1. 教区のあゆみを振り返る（2010年教区代表者会議から現在まで）

〔1〕2005年・2010年教区代表者会議を受けて、広島教区宣教司牧活動の基本方針『「平和の使徒となろう」を広島教区固有の召命とし、あらゆる活動の源泉とする』『「平和」「きょうどう」「養成」を三つの柱とする』を掲げ、その取り組みをすすめる「平和推進チーム」「きょうどう推進チーム」「養成推進チーム」「多文化共生チーム」の四つの活動を推進してきました。【ご参考：2012新ガイドライン『平和の使徒となあれ！』】
そうしたあゆみの中で、教区の宣教司牧テーマの提示は、分かりやすかったですか？
また、宣教司牧活動のテーマをどのように実践することができましたか？
○印をご記入し、そう思った理由などをお知らせください。

① 「平和」・「きょうどう」・「養成」の三本柱

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 良く分かった | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 分かりやすかった | [|
| <input type="checkbox"/> 分かりにくかった | |
| <input type="checkbox"/> 分からなかった | |

② 「平和推進」の実践

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 実践できた | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 実践できなかった | [|

③ 「きょうどう推進」の実践

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 実践できた | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 実践できなかった | [|

④ 「養成推進」の実践

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 実践できた | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 実践できなかった | [|

⑤ 「多文化共生推進」の実践

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 実践できた | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 実践できなかった | [|

アンケート(2/4)

※2012 新ガイドライン『平和の使徒となあれ!』は、以下、平和の使徒推進本部のホームページからダウンロードできます。

http://cpap.hiroshima-diocese.net/?page_id=19

[2] 2013年に掲げられた四つの教区優先課題「青少年育成」「召命促進」「教区共通カテキズムの作成」「津和野の証人の列聖」、2014年から3年毎に設定された教区の宣教司牧テーマ「家庭へのチャレンジ」「教会へのチャレンジ」「社会へのチャレンジ」の提示は、分かりやすかったですか？

○印をご記入し、そう思った理由などをお知らせください。

⑥ 優先課題（青少年育成・召命促進・教区共通カテキズムの作成・津和野の証人の列聖）

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 良く分かった | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 分かりやすかった | [|
| <input type="checkbox"/> 分かりにくかった | |
| <input type="checkbox"/> 分からなかった | |

⑦ 教区の宣教司牧のテーマ（家庭・教会・社会へのチャレンジ）

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 良く分かった | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 分かりやすかった | [|
| <input type="checkbox"/> 分かりにくかった | |
| <input type="checkbox"/> 分からなかった | |

⑧ 前項①、上記⑥⑦の3種類の目標や課題などの固有性や関連性について

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 良く分かった | [そう思った理由] |
| <input type="checkbox"/> 分かりやすかった | [|
| <input type="checkbox"/> 分かりにくかった | |
| <input type="checkbox"/> 分からなかった | |

[3] 2014年から3年毎に設定された教区の宣教司牧テーマ「家庭へのチャレンジ」・「教会へのチャレンジ」に合わせて、どのような取り組みを実践しましたか？

[

2. 「教区創立 100 周年 (2023 年)」の迎え方・祝い方を考える

〔1〕 「社会へのチャレンジ」(2020 年 4 月～2023 年 3 月)について

1 年目：「いのち」、2 年目：「環境」、3 年目：「平和」というサブテーマに合わせて、
どのような取り組みを実践する予定ですか？

[

〔2〕 「教区創立 100 周年」のあり方について

① 記念ミサをおこなう日

歴史的に、教区創立 100 周年にあたるのは 2023 年 5 月 4 日ですが、記念ミサをおこなう日は、いつがいいと思いますか？ ○印をご記入ください。

() 2023 年 9 月 18 日(祝・月：敬老の日) …… 「教区の日」に合わせる。

() 2023 年 11 月 23 日(祝・木：勤労感謝の日)… 比較的、集しやすい。

() 2023 年 5 月 4 日(祝・木：みどりの日) …… 乙女峠祭りの翌日は難しいかも？

() その他 (2023 年 ___ 月 ___ 日 理由：_____)

② 関連行事について

記念ミサの他に、どのような関連行事 (その他の提案) があつたらいいと思いますか？

[

3. 教区創立 100 周年後の新たな教区の優先課題や目標を考える

〔1〕 これまでの教区の優先課題や目標の中で、今後も継続すべきものは何ですか？

また、新たに加えた方がいい課題や目標はありますか？

[

〔2〕 多国籍化、少子高齢化、信徒や召命の減少などに対応するこれからの教会（小教区・地区・教区）の機構・組織のあり方について、どのように工夫したらいいと思いますか？

[

〔3〕 上記〔2〕に関連して、小教区・地区・教区で、現在おこなわれている行事や活動を、どのように工夫したらいいと思いますか？

[

4. 代表者会議に向けて、何かご意見等ございましたらご自由にお書きください。

[

ご協力、ありがとうございました
2020 広島教区代表者会議実行委員会

三つのころ

沖に漕ぎ出せ

- ～ 輪を抜けていく共同体 ～
- (1) まず、家族の中で輪を抜けましょう。
- (2) 小教区で共同体の輪を抜けましょう。
- (3) 社会の中で連帯の輪を抜けましょう。

イエスは、「沖に漕ぎ出せ」と呼びかけておられます。不漁という現実の厳しさに打ちのめされ、疲れているにちがいない漁師に、もう一度網をおろすことを命じられます。

2005 代表者会議に向けての私たちの意識・課題・取組み

- 小教区の取り組み**
 - 分かち合い (交流) の実施
 - 小教区が抱える問題の共有と意識
 - 信徒一人ひとりの意識改革
- 小教区を超えた取り組み・課題**
 - 小教区を超えた分かち合いと取り組みの必要性
 - 典礼・靈性的なこと
 - ミサについて
 - 協働 (共同) 宣教師牧
 - 信者養成
 - 召命
 - 教会学校
 - 家庭の信仰教育
 - 外国語ミサ... など
 - 福音宣教
 - 入信者を増やす
 - 「平和の使徒」としての働き

- 小教区の課題**
 - 改宗者、久しく教会を訪れた人の印象
 - 教会は冷たい (温かみがない)
 - 高齢者、障害者への配慮が足りない
 - 滞日外国人への配慮と共生が足りない
 - 意識が内向き (教会側) ?

平和

2002 教区大会

教区創立 100 周年

- 2020 「いのち」
- 2021 「環境」
- 2022 「平和」

社会へのチャレンジ

- 2017 「祈る使命」
- 2018 「伝える使命」
- 2019 「仕える使命」

教会へのチャレンジ

2016←2014

家庭へのチャレンジ

2013 教区の優先課題

- ① 青少年育成
- ② 召命促進
- ③ 教区共通カテキズムの作成
- ④ 津和野の証し人列聖

2012 新ガイドライン 「平和の使徒となあれ！」

2010 教区代表者会議

- [1] 小教区内の信者同士のきょうどう
- [2] 諸活動グループ間のきょうどう
- [3] 教会奉仕者・協力者の減少
- [4] 小教区間、地区、ブロック間のきょうどう
- [5] 共同宣教師牧
- [6] 地理的課題を踏まえたきょうどう
- [7] 地の叫びに応えるきょうどう
- [8] 地域、社会、世界を変革するきょうどう
- [9] 教育機関におけるきょうどう
- [10] 在住外国人との「きょうどう」全般

テーマ 「きょうどうと神さまの呼びかけにこたえてく」

2010 代表者会議の分科会テーマ

きょうどう

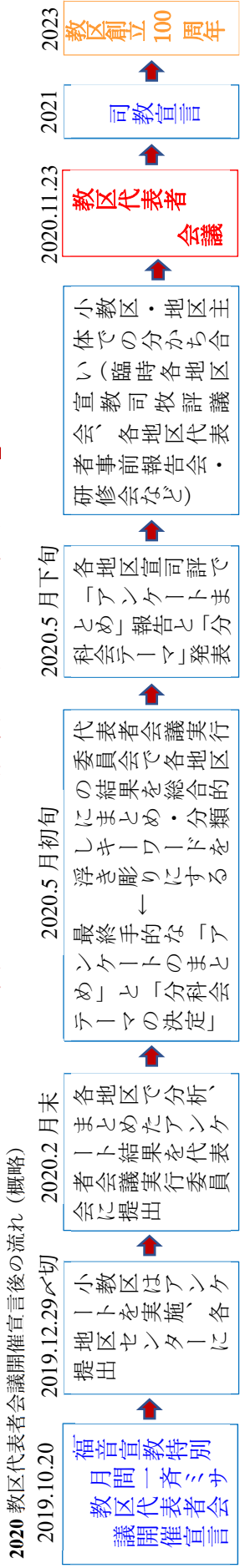
養成

2020 年 11 月 23 日 教区代表者会議の開催目的

- ① 教区のあゆみを振り返る (2010 年の教区代表者会議から現在まで)
 - ② 「教区創立 100 周年 (2023 年)」の迎え方・祝い方を考える
 - ③ 「教区創立 100 周年 (2023 年)」後の教区の優先課題や目標を考える
- 皆さんのご意見やご要望をお聞かせください。

「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ」

(2020 教区代表者会議メイン・テーマ)



【振り返り：2010 教区代表者会議～現在】

- ① 新ガイドライン「平和の使徒となあれ！」の中で打ち出されていた「平和」、「きょうどう」、「養成」、「多文化共生」の目標をどのように実践することができましたか。
- ② 教区の宣教師のテーマ (家庭・教会・社会へのチャレンジ) にどのような取り組みを実践しましたか。
- ③ 教区の優先課題や目標等、これまでの提示のあり方は、分かりやすかったですか。

- ① 「社会へのチャレンジ」のうち、「環境」、「平和」というサブテーマに合わせて、どのような取り組みを実践しますか。
- ② 教区創立 100 周年のあり方
 - 教区創立 100 周年は、23 年 5 月 4 日ですが、記念ミサを行う日は、いつがいいと思いますか。
 - ・ 9 月 18 日 「教区の日」
 - ・ 11 月 23 日
 - ・ 5 月 4 日
 - 記念ミサの他に、どのような関連行事があつたらいいと思いますか。

- ① これまでの教区の優先課題や目標の中で、今後、継続すべきものは、何ですか。新たに加えた方がいい優先課題や目標は、何ですか。先
- ② 多国籍化、少子高齢化、信徒・召命の減少等に対応する教会 (小教区・地区・教区) の機構・組織のあり方を、どう工夫したらいいですか。どの中で、継続していくべきものは、何ですか。

【新たな教区の優先課題や目標】

私たちへの問いかけ

- 日曜日にミサにあずかることだけが信仰イキイキしますか？
- 自分に合った信仰イキイキとは？
- 信者の務めなのですか？
- 今の自分に満足していますか？
- 種々の現代社会の問題にキリスト者として挑戦していますか？
- 教会に『自分の居場所』は？
- 教会に『自分の居場所』がありますか？
- 自分自身の居場所がない (改宗者、久しく教会を訪れた人、教会に來れない人) への配慮について考えていますか？

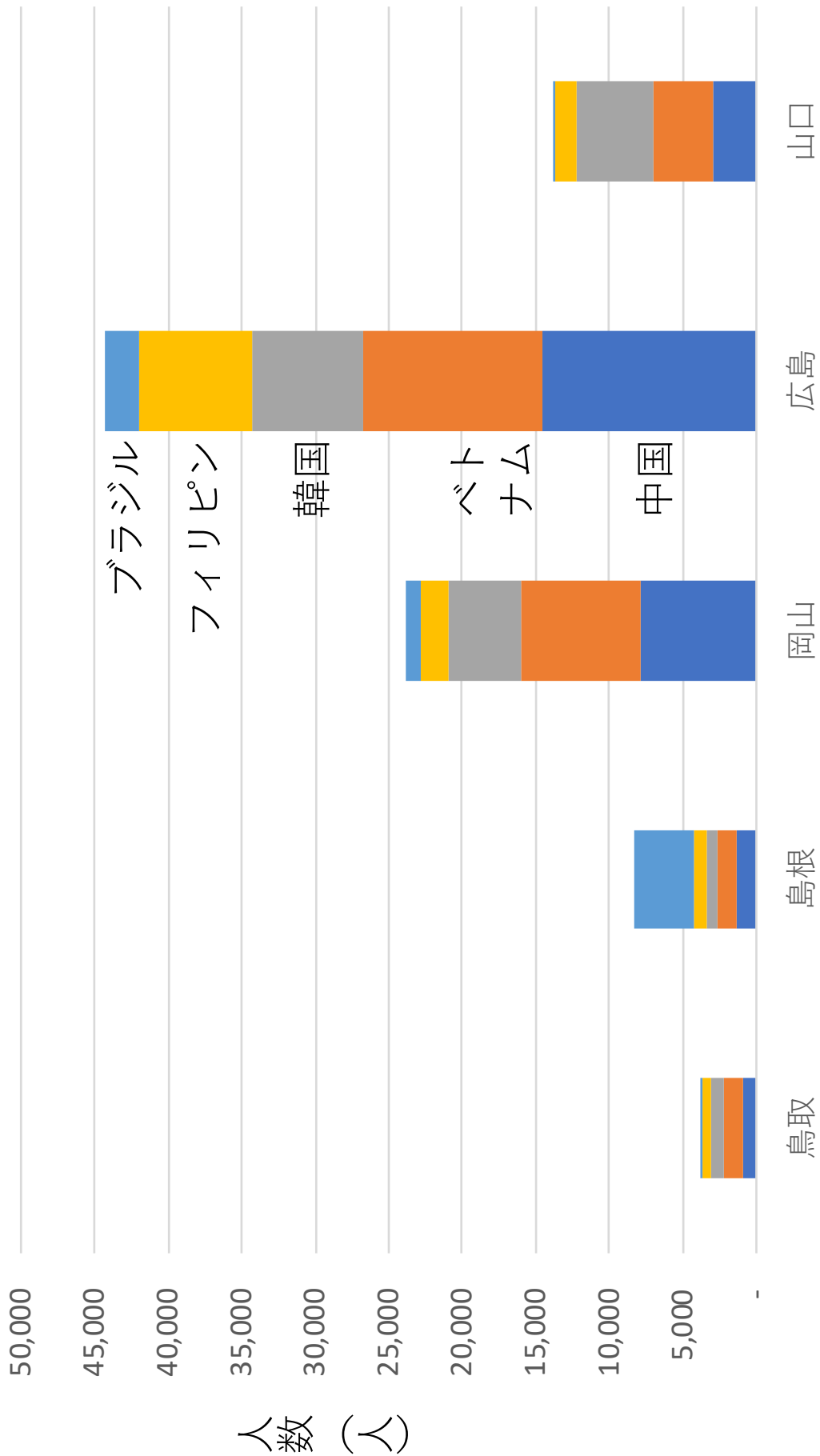
2006 宣教師に関する司教宣言 「平和の使徒となろう」

- 1. 「平和の使徒となろう」を広島教区固有の召命とし、あらゆる活動の源泉とします。
- 2. 「平和」「きょうどう」「養成」を三つの柱とします。

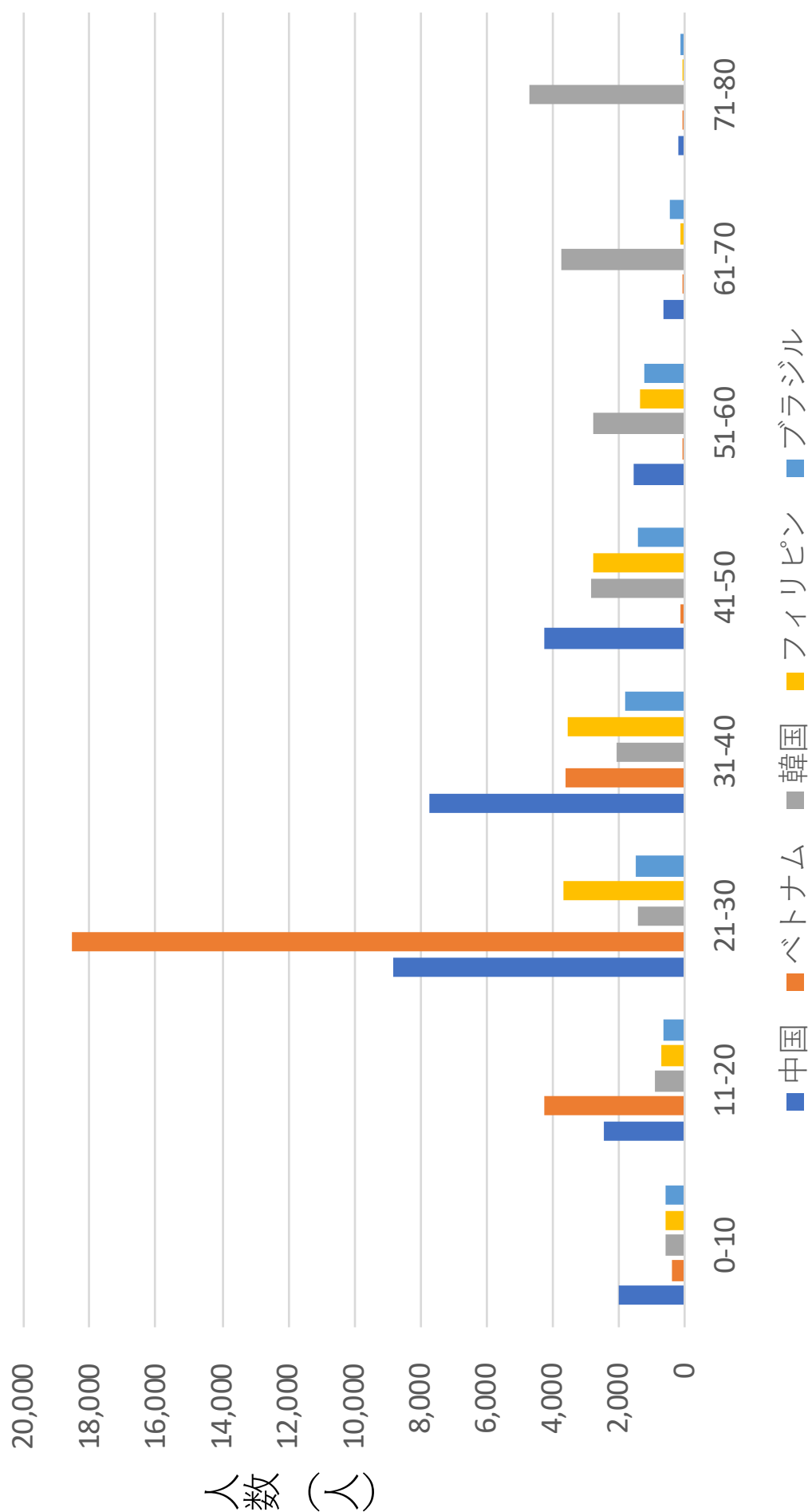
2005 教区代表者会議

2007 ガイドライン 「平和の使徒となろう」

中国5県の外国人登録者数（2019年6月）



中国5県の年代別外国人居住者（2019年6月）



中国5県の外国人居住者推移

